



Informatica® Intelligent Cloud Services
October 2025

管理者の新機能

© 著作権 Informatica LLC 2019, 2025

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複製、写真複製、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica Cloud、Informatica Intelligent Cloud Services、PowerCenter、PowerExchange、および Informatica ロゴは、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web (<https://www.informatica.com/trademarks.html>) にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、infa_documentation@informatica.com までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2025-12-02

目次

序文	4
Informatica のリソース.....	4
Informatica マニュアル.....	4
Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト.....	4
Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティ.....	4
Informatica Intelligent Cloud Services マーケットプレイス.....	5
データ統合のコネクタのドキュメント.....	5
Informatica ナレッジベース.....	5
Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center.....	5
Informatica グローバルカスタマサポート.....	5
 第 1 章 : 2025 年 10 月	6
重要な特記事項.....	6
新機能と改良点.....	6
変更された動作.....	8
 第 2 章 : 2025 年 7 月	9
重要な特記事項.....	9
新機能と改良点.....	9
変更された動作.....	11
 第 3 章 : 2025 年 5 月	13
重要な特記事項.....	13
変更された動作.....	13
 第 4 章 : 2025 年 4 月	14
重要な特記事項.....	14
新機能と改良点.....	14
変更された動作.....	16
 第 5 章 : アップグレード	17
アップグレードの準備.....	17
ディスク容量の要件とファイルの準備.....	17
前処理コマンドの動的ファイル.....	18
 索引	19

序文

2025 年 10 月リリースの管理者サービスにおける新機能、改良点、および動作の変更については、「Administrator の新機能」を参照してください。実行が必要になることがあるアップグレード手順の情報も提供されています。

Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、<https://docs.informatica.com> にアクセスしてください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム (infa_documentation@informatica.com) までご連絡ください。

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト (<http://www.informatica.com/cloud>) にアクセスできます。このサイトには、Informatica Cloud 統合サービスに関する情報が含まれます。

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティ

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティを使用して、技術的な問題について議論し、解決します。また、技術的なヒント、マニュアルの更新情報、FAQ（よくある質問）への答えを得ることもできます。

次の Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティにアクセスします。

<https://network.informatica.com/community/informatica-network/products/cloud-integration>

開発者は、次の Cloud 開発者コミュニティで詳細情報を確認したり、ヒントを共有したりできます。

<https://network.informatica.com/community/informatica-network/products/cloud-integration/cloud-developers>

Informatica Intelligent Cloud Services マーケットプレイス

Informatica マーケットプレイスにアクセスすると、データ統合コネクタ、テンプレート、およびマップレットを試用したり購入したりできます。

<https://marketplace.informatica.com/>

データ統合のコネクタのドキュメント

データ統合のコネクタのドキュメントには、マニュアルポータルからアクセスできます。マニュアルポータルを利用するには、<https://docs.informatica.com> にアクセスしてください。

Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、<https://search.informatica.com> にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム (KB_Feedback@informatica.com) です。

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center は、Informatica のセキュリティポリシーおよびリアルタイムでのシステムの可用性について情報を提供します。

Trust Center (<https://www.informatica.com/trust-center.html>) にアクセスします。

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center にサブスクライブして、アップグレード、メンテナンス、およびインシデントの通知を受信します。[Informatica Intelligent Cloud Services Status](#) ページには、すべての Informatica Cloud 製品の実稼働ステータスが表示されます。メンテナンスの更新はすべてこのページに送信され、停止中は最新の情報が表示されます。更新と停止の通知がされるようにするには、Informatica Intelligent Cloud Services の 1 つのコンポーネントまたはすべてのコンポーネントについて更新の受信をサブスクライブします。すべてのコンポーネントにサブスクライブするのが、更新を逃さないようにするための最良の方法です。

サブスクライブするには、[Informatica Intelligent Cloud Services Status](#) ページで **【サブスクライブして更新】** をクリックします。電子メール、SMS テキストメッセージ、Webhook、RSS フィード、またはこの 4 つの任意に組み合わせとして送信される通知を受信するという選択ができます。

Informatica グローバルカスタマサポート

グローバルサポートセンターには、Informatica Network または電話でお問い合わせください。

Informatica Network でオンラインサポートリソースを検索するには、Informatica Intelligent Cloud Services のヘルプメニューで **【サポートにお問い合わせください】** をクリックして、**Cloud Support** ページに移動します。**Cloud Support** ページには、システムステータス情報とコミュニティディスカッションが記載されています。追加のリソースを検索する場合や電子メールで Informatica グローバルカスタマサポートに問い合わせる場合は、Informatica Network にログインし、**【サポートが必要な場合】** をクリックしてください。

Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica の Web サイト <https://www.informatica.com/services-and-training/support-services/contact-us.html> に掲載されています。

第 1 章

2025 年 10 月

次のトピックでは、Informatica Intelligent Cloud Services 管理者の 2025 年 10 月リリースの変更された動作について説明します。

重要な特記事項

管理者の 2025 年 10 月リリースには、次のような重要な特記事項が含まれています。

JSON Web トークンとセッション ID

Informatica は、ユーザー認証に使用されるセッション ID を JSON Web トークン (JWT) に置き換える予定です。2025 年 11 月 3 日以降、組織の管理者は Administrator の【組織】ページでセッションベースの認証から JWT ベースの認証に切り替えるオプションが利用できるようになります。有効にすると、ブラウザベースのユーザーインターフェース通信では、バックグラウンドで JWT トークンがシームレスに使用されます。

REST API 呼び出しの場合、通常どおり、セッション ID を要求ヘッダーに含める必要があります。ただし、セッション値には、【組織】ページで設定された固定の有効期限を持つ JWT トークンが含まれるようになります。その結果、トークンの有効期限が切れる前後に自動再認証を処理するために、REST API スクリプトを更新する必要があります。詳細については、[JWT Support](#) に関するナレッジベースの記事を参照してください。

2025 年 10 月リリースでは、セッションベースの認証はデフォルトとして保持されます。2026 年 4 月以降、JWT がデフォルトの認証方法になります。2026 年 7 月までに、セッションベースの認証は利用できなくなります。

注: 組織で B2B Gateway、API マネージャ、または REST V2 コネクタを使用している場合は、2025 年 10 月リリースで JWT オプションを選択しないでください。B2B Gateway および REST V2 コネクタの JWT オプションは、2026 年 4 月リリースで利用可能になります。

新機能と改良点

管理者の 2025 年 10 月リリースには、次のような新機能と改良点が含まれています。

データ統合とデータ取り込みおよびレプリケーション用の CLAIRE Copilot 機能特権

データ統合の機能特権「データ統合 Copilot へのアクセス」を割り当てて、ロールがデータ統合とデータ取り込みおよびレプリケーションに CLAIRE Copilot を使用できるようにすることができます。この特権は、システム定義の管理者、デザイナー、およびモニタロールに自動的に割り当てられます。管理者ロールとデザイナーロールは、アセットを作成および集計できます。モニタロールはアセットを作成できませんが、アセットを集計することはできます。

エラスティックランタイム環境

エラスティックランタイム環境に対して次のようなタスクを実行できます。

- Administrator からクラスタインストーラをダウンロードする。
- AWS Secrets Manager を使用して、接続資格情報を取得する。
- 環境設定を編集して、デプロイされたエラスティックランタイム環境を更新する。
- 高可用性を無効にして再度有効にする。以前は、高可用性を有効にした場合、無効にすることはできませんでした。
- スクリプトパスを指定して、エラスティックランタイム環境でスクリプトを実行する。
- URI /api/v3/RuntimeEnvironment/<runtime environment ID>/ElasticConfig を使用して、REST API を実行し、補足ファイルの仕様を取得、更新、および削除する。次のような補足ファイルをエラスティックランタイム環境にアップロードできます。
 - データベースドライバ
 - ネイティブライブラリと実行可能ファイル
 - Java トランスフォーメーション用の JAR ファイルと Java ライブラリ
 - SSL/TLS 証明書とキーストア
 - SAP 接続ドライバとライブラリ
- エラスティックランタイム環境のユーザーインターフェースで、次の詳細を表示する。
 - エラスティックランタイム環境内のワーカーノードの数を経時的に示すライフサイクルグラフ。
 - エラスティックランタイム環境に送信されたジョブのリスト。
 - エラスティックランタイム環境が使用しているイメージのリスト。
- スクリプトを実行して、AWS リソースと Kubernetes リソースをクリーンアップする。以前は、AWS リソースを手動で削除する必要がありました。

注: クラスタインストーラポリシーとワーカーポリシーには、更新された権限セットがあります。更新されたポリシーを表示するには、「ランタイム環境」を参照してください。

エラスティックランタイム環境の詳細については、「ランタイム環境」を参照してください。REST API の詳細については、『*REST API リファレンス*』を参照してください。

カテゴリとサブカテゴリによる通知のフィルタリング

[通知] ページでは、カテゴリとサブカテゴリでフィルタリングを行うことができます。

詳細については、「ユーザー管理」を参照してください。

多要素認証

Informatica Intelligent Cloud Services にログインするネイティブの人間のユーザーは、多要素認証を利用できます。**[組織]** ページで多要素認証を有効にし、**[ユーザー]** ページでユーザーを人間のユーザーとして分類することができます。

多要素認証が有効になっている場合、ネイティブの人間のユーザーは、ユーザーインターフェースにログインすると、電子メールで確認コードを受け取ります。人間以外のユーザーは、中断することなく API の実行を継続できます。

詳細については、「組織管理」および「ユーザー管理」を参照してください。

ランタイムステータスパラメータ

プラットフォーム REST API バージョン 3 の新しい includeAllImageStates クエリパラメータを使用して、実行時ステータスを取得できます。

【スケジュール】 ページの改良点

【スケジュール】 ページには、次のような改良点が含まれています。

- メインページに説明が表示されます。
- 検索バーを使用して、名前と説明でスケジュールを検索します。

ユーザーグループと個々のユーザーのデフォルトのサービスの設定

ユーザーがログインした後に開くサービスを指定できます。ユーザーグループまたは個々のユーザーにデフォルトのサービスを設定できます。ユーザーは、【マイサービス】 ページで独自のデフォルトを選択することで、この設定を上書きすることができます。

変更された動作

管理者の 2025 年 10 月リリースには、次のような変更された動作が含まれています。

SQL ELT の名前

高度なプッシュダウンの最適化メーターは、SQL ELT と呼ばれるようになりました。

PMExtProcDir

OSProfileUserMappingFile データ統合サーバープロパティを定義するときに、PMExtProcDir 変数を使用して外部プロシージャのディレクトリを指定します。

以前は、この変数の名前は誤って PmExtProcDir となっており、小文字の「m」が使用されていました。PmExtProcDir を使用した場合、その値は無視されます。

第 2 章

2025 年 7 月

次のトピックでは、Informatica Intelligent Cloud Services 管理者の 2025 年 7 月リリースの変更された動作に関する情報を提供します。

重要な特記事項

管理者の 2025 年 7 月リリースには、次のような重要な特記事項が含まれています。

プレビューの開始

2025 年 7 月リリースでは、次の機能をプレビューで利用できます。

組織がシークレットマネージャを使用している場合のデータ統合での接続の作成

2025 年 7 月リリースでは、組織で外部のシークレットマネージャを使用している場合に、データ統合で接続を作成する機能をプライベートプレビューで利用できるようになりました。

エラスティックランタイム環境

2025 年 7 月リリースでは、エラスティックランタイム環境をプレビューで利用できます。

プレビュー機能は評価を目的としてサポートされていますが、保証対象外で、本番環境または本番環境にプッシュする予定の環境には対応していません。Informatica は、本番環境用の今後のリリースにプレビュー機能を含める予定ですが、市場や技術的な状況の変化に応じて導入を行わない場合もあります。詳細については、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

新機能と改良点

管理者の 2025 年 7 月リリースには、次のような新機能と改良点が含まれています。

ターボモードでのアプリケーション統合プロセスのメータリング使用状況レポート

組織内でターボモードで実行されるアプリケーション統合プロセスおよびサブプロセスのメータリング使用状況レポートをダウンロードできます。このレポートには、プロセス、サブプロセス、ガイド、および OData API の実行の詳細が表示されます。

詳細については、「[組織管理](#)」を参照してください。

エラスティックランタイム環境

エラスティックランタイム環境は、コンテナと Kubernetes オーケストレーションを使用してエラスティックスケールリングを提供し、リソース管理を最適化するという点を除いて、Secure Agent グループに似ています。

ワークロードの需要が変動し、コストを管理する必要がある環境に最適です。この環境を AWS クラウド環境にすばやくデプロイし、新しいノードを追加したり、既存のノードを拡張したりすることでスケーリングをカスタマイズできます。

詳細については、「ランタイム環境」を参照してください。

注: 7月リリースでは、エラスティックランタイム環境をプレビューで利用できます。プレビュー機能は評価を目的としてサポートされていますが、保証対象外で、本番環境または本番環境にプッシュする予定の環境には対応していません。Informatica は、本番環境用の今後のリリースにプレビュー機能を含める予定ですが、市場や技術的な状況の変化に応じて導入を行わない場合もあります。詳細については、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

ユーザーグループとロールのフィルタリング、並べ替え、検索

ユーザーを編集するときに、ユーザーの詳細ページで使用可能なユーザーグループとロールをフィルタリング、並べ替え、検索して、より簡単に見つけることができます。

詳細については、「ユーザー管理」を参照してください。

TLS 1.3 で新しい暗号スイートをサポート

Informatica は Transport Layer Security (TLS) 1.3 をサポートするようになりました。これには、次の追加の暗号スイートのサポートが含まれています。

- TLS_AES_128_GCM_SHA256
- TLS_AES_256_GCM_SHA384

組織が TLS 1.3 暗号またはサポートされている TLS 1.2 暗号の少なくとも 1 つを使用していることを確認します。詳細については、次のナレッジベースの記事を参照してください:

[Change in Cipher Suites for IDMC with TLS 1.3](#)

REST API

REST API には、次の改良点があります。

アクティビティログ

特定の ID の情報を取得する場合の activityMonitor v2 API の GET 応答と activityLog v2 API の GET 応答に、startTimeUtc フィールドと endTimeUtc フィールドが追加されました。これらのフィールドは、実行中のタスクの開始時刻と終了時刻、またはリニアタスクフローとレプリケーションタスクの完了したジョブの項目の開始時刻と終了時刻を協定世界時 (UTC) で返します。

ファイル転送

upload コマンドで、https://<host name>:<port>/fileserver/upload のような URL を使用してファイルをサーバーに転送する場合、必要に応じて次の要求パラメータを使用できます。

- generateUniqueld. ファイル転送タスクの一意の ID を生成して返す場合は、true に設定します。デフォルトは false です。
- fileMetadata. JSON 形式のファイルに関連するメタデータ。

これらの要求パラメータを含めると、応答にはそれぞれ次の戻りパラメータが含まれます。

- fileUniqueld. ファイル転送タスクに対して生成された一意の ID。
- fileMetadata. JSON 形式のファイルに関連するメタデータ。

タイムゾーン

アメリカ/サンティアゴのタイムゾーンが REST API 呼び出しに追加されます。

RunAJob ユーティリティ

RunAJob ユーティリティが Java コマンドを実行するために使用する初期ヒープサイズと最大ヒープサイズを指定できます。

詳細については、『*REST API リファレンス*』を参照してください。

シークレットマネージャの改良点

外部のシークレットマネージャへのアクセスが次のように改良されました。

- Secure Agent は、インスタンスプロファイル認証を使用して AWS Secrets Manager にアクセスできます。
- AWS Secrets Manager を使用していて、両方のアカウントが同じリージョンにあるならば、Secure Agent がシークレットにアクセスするために使用するアカウントと、シークレットが保存されているアカウントは異なる場合があります。
- AWS Secrets Manager を使用している場合は、完全な Amazon リソースネーム（ARN）を使用してシークレットを取得できます。
- 組織で外部のシークレットマネージャを使用している場合、マッピングやタスクを作成または編集するときに、データ統合で接続を作成および表示できます。また、シークレットマネージャから機密情報である認証情報を取得するように接続を設定することもできます。

注: 2025 年 7 月リリースでは、組織でシークレットマネージャを使用している場合に、データ統合で接続を作成する機能をプライベートプレビューで利用できるようになりました。プレビュー機能は評価を目的としてサポートされていますが、保証対象外で、本番環境または本番環境にプッシュする予定の環境には対応していません。Informatica は、本番環境用の今後のリリースにプレビュー機能を含める予定ですが、市場や技術的な状況の変化に応じて導入を行わない場合もあります。詳細については、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

詳細については、「*組織管理*」を参照してください。

SUSE Linux Enterprise 15 Service Pack 6

Informatica は、SUSE Linux Enterprise 15 SP6 をサポートするようになりました。

前処理コマンドと後処理コマンドへのユーザーアクセス

ユーザーロールを作成して、前処理コマンドタスクと後処理コマンドタスクへのアクセスを制御できます。

詳細については、「*ユーザー管理*」を参照してください。

変更された動作

管理者の 2025 年 7 月リリースには、次のような動作の変更が含まれています。

データサービスのアセット特権

データ統合でデータサービスのアセット特権を持つカスタムロールを作成すると、そのロールでは、ユーザーが管理者ロールを追加で持つことなく、データサービスにアクセスする権限を持つことができます。

以前は、これらの権限は、ユーザーにカスタムロールに加えて管理者ロールが割り当てられている場合にのみ有効でした。

詳細については、「*ユーザー管理*」を参照してください。

ログインの最大試行回数

ログイン試行失敗の最大回数は 10 回になりました。デフォルトは 3 です。これまでログイン試行失敗の回数制限がなかったユーザーに、試行回数 10 回の上限が設けられました。

以前は、ログイン試行の最大回数は無制限でした。デフォルトは 10 回でした。

詳細については、「*ユーザー管理*」を参照してください。

組織の全般プロパティ

【組織】 ページの全般プロパティには、次のような変更が含まれています。

- **【環境タイプ】** プロパティで使用可能な値が、組織のライセンスに基づいてフィルタリングされるようになりました。以前は、このプロパティをライセンスで使用できない値に設定することができました。
- **【MDM 環境タイプ】** プロパティは表示されなくなりました。

詳細については、「[組織管理](#)」を参照してください。

第 3 章

2025 年 5 月

次のトピックでは、Informatica Intelligent Cloud Services 管理者の 2025 年 5 月リリースの変更された動作に関する情報を提供します。

重要な特記事項

管理者の 2025 年 5 月リリースには、次のような重要な特記事項が含まれています。

重要な通知の電子メール設定

ユーザー設定で、重要な通知電子メールをオフにするオプションを利用できます。この設定は 2025 年 7 月から有効になりました。

変更された動作

管理者の 2025 年 5 月リリースには、次のような動作の変更が含まれています。

CLAIRE の設定

組織の CLAIRE 設定は、**【設定】** ページで構成できます。

以前は、CLAIRE 設定は **【組織】** ページにありました。

詳細については、「*組織管理*」を参照してください。

新しい組織のアプリケーション統合プロセスはターボモードでのみ実行

2025 年 4 月 30 日以降に作成された組織では、すべてのアプリケーション統合プロセスがターボモードでのみ実行されます。**【Administrator】** の **【設定】** ページでは、これらの組織のターボモードを手動で有効にするオプションが灰色表示され、編集することはできません。ただし、2025 年 4 月 30 日より前に作成された組織のターボモードは有効または無効にすることができます。

詳細については、「*組織管理*」を参照してください。

第 4 章

2025 年 4 月

次のトピックでは、Informatica Intelligent Cloud Services 管理者の 2025 年 4 月リリースの新機能、改良点、および動作変更に関する情報を提供します。

重要な特記事項

管理者の 2025 年 4 月リリースには、次のような重要な特記事項が含まれています。

保留サポート

2025 年 2 月リリースから、詳細クラスタのワーカーノードとして GPU インスタンスと Graviton インスタンスを使用する機能は保留されます。

保留された機能は、現在のリリースでは使用できないか、サポートされていません。Informatica では、今後のリリースで復活させる可能性もありますが、市場や技術的な状況の変化に応じて復活しない場合もあります。

データアクセス管理サービスを引き続き使用するために必要なアクション

組織が今後も別のデータアクセス管理サービスを使用して、データ統合のアクセスポリシートランスフォーメーションのデータアクセスポリシーを適用する場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに問い合わせ、この機能を有効にするように依頼してください。

新機能と改良点

管理者の 2025 年 4 月リリースには、次のような新機能と改良点が含まれています。

プロセスサーバーの HTTP ポートを無効にする機能

Administrator の **[ランタイム環境]** ページでプロセスサーバーの **[http-port]** プロパティ値を空のままにすると、セキュアではない接続を無効にすることができます。変更を有効にするには、Secure Agent を再起動する必要があります。この設定を行った後に、HTTP エンドポイント URL を使用してアプリケーション統合プロセスを呼び出すと、エラーが発生します。

詳細については、「*Secure Agent サービス*」を参照してください。

Secure Agent のポート範囲の設定

テキストエディタで次のファイルを編集することで、Secure Agent が使用するポート範囲を設定できるようになりました。

```
<Secure Agent installation directory>/apps/agentcore/conf/infaagent.ini
```

次の行を追加して、ポート範囲を指定します。

```
InfaAgent.StartPort=<start range number>  
InfaAgent.EndPort=<end range number>
```

注: InfaAgent.StartPort と InfaAgent.EndPort が infaagent.ini に存在しない場合、Secure Agent はデフォルトでポート 14000 から 14999 を使用します。

シークレットマネージャのカスタム認証エンドポイント

シークレットマネージャがデフォルトの認証エンドポイントとは異なる認証エンドポイントと通信する場合、カスタム管理の暗号化キーを使用できます。

別のエンドポイントを使用する場合は、シークレットマネージャに基づいて次の接続プロパティを設定します。

- AWS Secrets Manager。ロールベースの認証を使用してシークレットマネージャにアクセスし、リージョンまたは手動で設定されたエンドポイントを使用する場合は、STS エンドポイント URL と STS エンドポイントリージョンを設定できます。
- Azure Key Vault。デフォルトのグローバルエンドポイント以外のエンドポイントを使用する場合は、権限ホストを設定できます。
- HashiCorp Vault。AppRole 認証方法にカスタムパスを使用する場合は、AppRole パスを設定できます。

シークレットマネージャの使用方法に関する詳細については、「組織管理」を参照してください。

メータリングタグ

メータリングタグを使用すると、アセットレベルで消費メトリクスを表示できるため、クラウドリソースをより効果的に整理および管理できます。

詳細については、「メータリング」を参照してください。

アプリケーション統合プロセスを実行するための新しいターボモード

新しいターボモードでアプリケーション統合プロセスを実行するという選択ができるようになりました。ターボモードは、高スループット、パフォーマンスの向上、および低遅延を提供します。

[Administrator] の **【設定】** ページでターボモードを有効にします。ターボモードは、新しいジョブに対して、または組織内で実行されるすべての既存のジョブに対して有効にすることができます。

ターボモードで実行されるプロセスは、特定の期間に実行されたプロセスインスタンスの数に基づいて測定されます。

詳細については、「組織管理」を参照してください。

通知

通知に次のような機能強化が実装されました。

- 通知トレイでは、関連する通知がグループ化され、最初の項目の下に折りたたまれた状態で表示されます。グループを展開すると、すべての通知を表示することができます。
- **[ユーザー通知の管理]** 権限が割り当てられてユーザーは、組織内のユーザーが電子メール通知を受信するかどうかを設定することができます。これにより、新しいユーザーのデフォルトの動作を設定して、すべてのユーザーの設定をオーバーライドすることができます。管理者ロールには、デフォルトでこの権限が割り当てられています。
通知の設定に関する詳細については、「組織管理」を参照してください。ロールと権限に関する詳細については、「ユーザー管理」を参照してください。
- 通知トレイの製品フィルタリングオプションは、フィルタリングが利用できないサービスには表示されなくなりました。
通知トレイの詳細については、「ユーザー管理」を参照してください。

Microsoft Azure でのサーバーレスランタイム環境

ユーザー割り当てのマネージド ID を使用して、サーバーレスランタイム環境に補足ファイルの場所へのアクセス権を付与することができます。以前は、サービスプリンシパルの資格情報のみを使用してアクセス権を付与することができました。

詳細については、「[ランタイム環境](#)」を参照してください。

ソース管理

クラウドでホストされている GitLab リポジトリをソース管理に使用することができます。

詳細については、「[組織管理](#)」を参照してください。

変更された動作

管理者の 2025 年 4 月リリースには、次のような変更された動作が含まれています。

API ポータルの OAuth 2.0 トークン生成

API ポータルサービスの場合のみ、API コンシューマはクライアント資格情報を使用して Informatica Intelligent Cloud Services OAuth 2.0 サーバーに対する認証を行い、トークンを生成します。2025 年 4 月リリース以降、クライアント資格情報と grant_type パラメータが重複して URL および要求本文で渡された場合、要求本文のパラメータにより URL パラメータがオーバーライドされます。

パブリック Azure クラスタの Secure Agent ロールの新しいアクセス権

非プライベートの Microsoft Azure クラスタの場合は、次の新しいアクセス権を Secure Agent ロールに追加する必要があります。

Microsoft.Compute/virtualMachineScaleSets/virtualMachines/networkInterfaces/ipConfigurations/publicIPAddresses/read

このアクセス権は、Azure パブリッククラスタを開始するためのパブリック IP アドレスを取得する場合に必要です。

詳細については、Informatica ドキュメントポータルの「[Create an agent role](#)」を参照してください。

第 5 章

アップグレード

次のトピックでは、データ統合のアップグレードの前後に実行が必要になる可能性があるタスクについて説明します。以前にアップグレードを行った後にこれらのタスクを実行していない場合に備えて、以前の月次リリースのアップグレード後のタスクも含まれています。

データ統合コネクタのアップグレードタスクの詳細については、「データ統合コネクタの新機能」を参照してください。

アップグレードの準備

2025 年 10 月リリースへのアップグレードの準備をするには、次のタスクを実行します。

ディスク容量の要件とファイルの準備

Secure Agent は、アップグレード後に初めてシステムにアクセスしたときにアップグレードされます。

次のディレクトリに追加したファイルは、アップグレード後も保持されます。

<Secure Agent のインストールディレクトリ>/apps/Data_Integration_Server/ext/deploy_to_main/bin/rdtm-extra

注: メジャーリリースにアップグレードした後、サービスの古いバージョンと新しいバージョンが最大 24 時間にわたって同時に実行され続ける可能性があります。この期間中のメモリの枯渇を避けるために、Secure Agent マシンに十分な空きメモリがあることを確認してください。

次の手順を実行して、Secure Agent のアップグレードの準備をします。

1. それぞれの Secure Agent マシンにアップグレード用の十分なディスク容量とメモリ容量がある事を確認します。

マシンには、2 つの Secure Agent を同時に実行するための十分な使用可能なメモリが必要です。

マシンには、5GB 以上の空き容量または次の式を使用して計算されたディスク領域の容量（どちらか大きい方）がなければなりません。

最低限必要な空き容量 = 3 * (現在の Secure Agent インストールディレクトリのサイズ - ログディレクトリに使用する容量)

2. ファイルのロックを回避するために、次のようなアプリケーションをすべて閉じてからファイルを開きます。
 - Windows Explorer
 - メモ帳
 - Windows コマンドプロセッサ (cmd.exe)

前処理コマンドの動的ファイル

データ統合は、アップグレード中にマッピングおよびタスクメタデータを更新します。前処理コマンドを使用して動的ファイルを作成するタスクがある場合は、アップグレード後の最初のタスクを実行する前に、指定されたファイルパスに参照ファイル名のファイルが存在することを確認してください。

ファイルが存在しない場合、データ統合は前処理コマンドと参照ファイルの間でメタデータをマッピングできず、タスクは失敗します。最初のタスク実行後に、データ統合ではファイルパスが保持されます。

索引

C

Cloud アプリケーション統合コミュニティ
URL [4](#)
Cloud 開発者コミュニティ
URL [4](#)

I

Informatica Intelligent Cloud Services
Web サイト [4](#)
Informatica グローバルカスタマサポート
連絡先情報 [5](#)

S

Secure Agent
アップグレードの準備 [17](#)

W

Web サイト [4](#)

あ

アップグレードの準備
Secure Agent の準備 [17](#)
アップグレード通知 [5](#)

し

システムステータス [5](#)

す

ステータス
Informatica Intelligent Cloud Services [5](#)

め

メンテナンスの停止 [5](#)